

揭示文書

タモキシフェンの婦人科臓器への影響に関する観察研究

現在、金沢大学附属病院で乳癌加療としてタモキシフェンによるホルモン治療が行われた患者さまを対象に、臨床研究を行っています。

これまでの治療の経過で採取させていただいた、血液検査などの臨床情報を用いて研究を行いますので、あらたに患者さまへの負担は生じません。また、費用の負担も生じません。

この説明文書を読まれた上で、参加の中止を申し出ることが出来ます。もし参加を中止しても、これからの治療に差し支えることは全くありません。

この研究に参加されるかどうかを決めていただくためには、あなたに研究の内容についてできるだけ多く知っていただくことが必要です。説明の中でわかりにくい言葉や疑問、質問がありましたらどんなことでも遠慮なくお尋ねください。

金沢大学附属病院 第1 版

作成日2015年7 月 7日

1. タモキシフェンについて

タモキシフェンは、閉経前乳癌に対するホルモン加療として有効であり、乳癌治療ガイドラインでは、第1選択となっています。このタモキシフェンは乳房に対しては、抗エストロゲン作用を示しますが、卵巣を刺激することがあり、そのため、予想外の女性ホルモン（エストロゲン）の上昇をきたすことがあります。このエストロゲンの上昇が、タモキシフェンを使用している際に乳癌に対してどのような影響を及ぼしているかは不明であります。実際、どの程度の割合でエストロゲンの上昇が起こるのか、その時卵巣や子宮にどのような所見を認めるのか、他のホルモンの変化はどうなっているのかはあまり知られていないのが現状です。

2. 今回の臨床研究について

この臨床研究は、タモキシフェンが卵巣や子宮に与える影響について調べます。タモキシフェンの開始からどの程度の期間でエストロゲン上昇が起きるのか、起こしている際に卵巣、子宮、ホルモン動態にどのような所見が認められるかを調べていきます。タモキシフェンのこれらに与える病態を調査し、最終的には妊孕性や乳癌の腫瘍化への影響を調べるのが今回の研究です。

3. 研究の方法・期間・対象者について

1) 方法

まず患者さまを匿名化（お名前や住所など特定できる個人情報を削除すること）します。その後これまでの加療歴、病気の進行度、採血検査結

果、および当科での画像（超音波検査、CT、MRI）など、カルテに記録が残っている事項を利用させていただきます。

2) 研究期間

金沢大学医学倫理委員会の承認日から2020年3月31日までです。

3) 対象者

対象となる方は、以前に当院外科でタモキシフェンによる加療を受けた患者さまです。対象となった方に直接こちらから連絡をとることはありません。

4) 対象者が行うこと

対象となる方が行うことは、特にありません。

4. 研究参加に伴う不利益，費用負担について

この研究では、対象となる方に直接治療などを行うことはありません。過去の検査結果を用いた研究であり、本研究に参加することによる患者さんの利益・不利益はともにありません。

この研究を行うにあたり、対象となる患者さまが費用を負担することはありません。また、謝礼もありません。

5. プライバシー保護について

この研究で得られた結果は学会や医学雑誌等に発表されることがあります。このような場合、対象となる患者さまは特定できないようにし、個人情報などプライバシーに関するものが公表されることは一切ありません。

6. 研究への不参加の自由と同意撤回の自由について

通常の臨床研究では、患者さま一人一人に同意文書をいただいています。この研究は過去に当院の外科でタモキシフェンの治療を受けた多くの方が対象となるため、それが困難であります。そのため、掲示やホームページ上でお知らせして、不参加を希望される場合にだけ、お手数ですが下記の試験責任医師、もしくは担当医にお知らせいただくこととさせていただきます。期間は2015年8月31日までとさせていただきます。

この研究に参加するかどうかについては、よく考えていただき、あなた自身の自由な意思でお決めください。研究が始まった後でもいつでも不参加の意志を伝えていただくことができます。もし、お断りになっても、あなたのこれからの治療に差し支えることは一切ありません。

なお、本研究は金沢大学医学倫理委員会の承認を受けた後に実施されます。

● この文書や試験に対する疑問や質問等がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。

金沢大学附属病院 産婦人科

試験分担医師：山崎玲奈 職名：助教

電話：076-265-2000（代表）